

提 言 書

はばたく産業のまち部会

テーマ：林業・農業の振興について

～新見版木の駅プロジェクトの早期実現へ～

新見市は、86%以上の森林面積を有し、人口林は70%を超える県北有数の森林地域である。

この恵まれた森林資源を有効に活用することで、林業と農業の繋がりを図り、地域の活性化にも役立てられるよう次のとおり提言する。

- ① 間伐により生じた林地残材、未利用材を積極的に搬出し、農業用ハウスの冬期熱源利用を実現する。

山に放置していた切捨て間伐材を山林所有者等が一定量を搬出したものを集材センターに集荷し、小型薪ボイラーによる農業用ハウスでの熱利用を実現する。また、集材者に対して地域券を発行し、地域の経済活動に役立ててもらおう。

このことで、1) 林地残材の活用が図られる。

2) 冬場のハウス栽培での熱源利用が可能となる。

3) 地域券の利用で地元の活性化や林産物、農産物の6次産業化にも繋がる。

こうしたことが効果として見込まれる。

- ② 森林の機能や役割、施業の内容・重要性を次世代に伝える。

森林は、生産材としての役割のみならず、水源涵養や災害防止等の国土保全機能等複合的役割を併せ持つ。このような多面的機能を分かりやすく子供たちに伝えることにより、地域の林業に興味を抱かせ、若い世代に職業としての林業の魅力を継承する取り組みが求められる。

子供たちには、木工教室、森林体験の実施、若い世代には間伐体験や講習会等を通して山を身近に感じる機会を増やすことが望ましい。これには、林業男子の協力が欠かせないことから、連携を取りつつ、きめ細かな企画を継続できる体制づくりが必要と考える。

次世代を担う若者たちに、森林の役割や林業の魅力を正しく伝えることで、地域を支える林業者の育成を図る。

現在、いくつかの市町村で木の駅プロジェクトが進められているが、それぞれの地域の実情にあわせた組織づくりが重要であると考え。①、②の特色を持った新見市独自の木の駅プロジェクトが関係機関の協力の下、早期に実現されることを期待する。

以上